

楽しみながら精進する ～ジョイアサッカークラブでのボランティア～ (20150001V)

ぎ 魏 そう 爽 (人間総合科学研究科 研究生)



始まり

今年4月中国から来日し、研究生として筑波大学で勉強し始めました。日本の社会をより知りたく、T-ACTの紹介を通じて、ジョイアという知的障がい者サッカークラブにてアシスタントコーチとしてボランティアをするチャンスをいただきました。この半年の活動を経て、誰かの役に立とうとしていた自分は良い人たちと出会い、楽しい思い出やいろいろな知識を得て、「to give is to gain」という言葉を改めて実感しました。

毎月の練習

チームは月に1回スポーツシュレで練習しています。主に基礎練習をしてから、チームを組んで試合します。つくばFCのコーチの2人がメンバーたちにサッカーテクニックを教えますが、私はその手伝いや付き添いをします。例えば、説明がわからないメンバーがいれば教えたり、体の動きがスムーズにコントロールできないメンバーを助けたりします。自分の役割はシンプルなので、メンバーたちと楽しく付き合えます。みんなかわいくてあつい人で、私のことを受け止めてくれて、趣味を話したり、冗談を言ったり、すんなり仲良くなれました。性格は十人十色ですが、サッカーに興味深いところはみんな同じです。いつもやる気満々で、汗を惜しむことなく、真面目に学んで実践します。練習試合前後のお辞儀と活動終了のメンバー代表発言もちゃんとしています。やりたいから全身全霊で真剣にやるという態度が私は大好きです。

2人のコーチやジョイアの責任者は心が広く、組織力もあり、私は尊敬しています。

地域の交流

サッカーといえば、やはり試合の無限の面白さでしょう。10月に東京で開催された第8回全日本知的障害児・者サッカー競技会～にっこにこフェスタ～に出場しました。実は8月、9月に東京や茨城のサッカークラブとも試合をしましたが、今回の全国大会はみんなわくわく期待していました。メンバーの家族も一緒に観戦し、応援しました。緊張感溢れる7試合で、勝ちも負けも味わい、第4位を受賞し、チームでかっこいい写真を撮りました。それに、ア

トラクションで遊んだり、一緒に昼食をとったり、ほかの地域のチームメンバーと交流したり、充実した一日でした。

日本ではこのような活動の内容が充実していて、団体数が多いため、先進国として障がい児・者に対する福祉や教育的アプローチが他の国にとって参考になる部分は多々あると思います。

なお、毎年行っているファミリーサッカーは、つくばFCの選手5人も参加してくださいました。家族と一緒に楽しく、強い選手と対戦し、練習の成果を十分に出せた痛快な一戦でした。メンバーたちのサッカーが上手になって嬉しく思いました。オフenseやディフェンスが成功した時のハイタッチや掛け声が一番気持ちよく、みなさんと活動している時間は本当にリラックスできます。

和して同せず

少し困難を抱えているメンバーであろうと、外国人の私であろうと、それぞれ身体上、思想上のダイバーシティがあっても、隔たりを感じることなく、みんな平等に生きていて、お互いに尊重しあい、個性を發揮しながら助け合い、サッカーの魅力を楽しむことができます。

それゆえ、私はここが好きです。茨城県をより素晴らしい地域にするために、まだボランティアをしたことのない若者は、ぜひ自分の情熱と才能を活かすように願っています。



ジョイアのメンバーたちと